# 令和７年度
# 経済企業委員会　視察報告書

■視察日程

令和７年５月１２日（月）～１３日（火）

■視察先

令和７年５月１２日 午後　兵庫県姫路市

令和７年５月１３日 午前　兵庫県赤穂市

■視察参加者

| | | |
|---|---|---|
| 【委員会】 | 委 員 長 | 古　嶋　津　義 |
| | 副委員長 | 木　村　博　幸 |
| | 委　　員 | 上　村　哲　三 |
| | 委　　員 | 金　子　昌　平 |
| | 委　　員 | 谷　口　　徹 |
| | 委　　員 | 中　山　諭扶哉 |
| | 委　　員 | 村　川　清　則 |
| 【随　行】 | 議会事務局 | 小　谷　　匠 |

■視察先及び目的

１　兵庫県姫路市

『外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について』

姫路市では、クルーズ船の寄港誘致を進めており、毎年外国クルーズ船の受入れを行っている。

昨今、全世界で猛威をふるった新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、国際クルーズ船の運航は停止していたが、令和５年３月から本格的に運航が再開され、インバウンド需要が回復するなかで、受入環境の整備やインバウンド対策の重要性が増している。

姫路市における外国クルーズ船寄港時のおもてなしの対応及び街中への回遊性を高めることによる地域経済の活性化へつなげる取組を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

２　兵庫県赤穂市

『貴市における各種農林水産業施策等について』

昨今、物価高・燃料費の高騰による生産コストの増加、中山間地等での有害鳥獣による被害、また、農業従事者の高齢化による後継者不足、耕作放棄地の増加など、農林水産業の抱える問題は多岐にわたる。そのような中、解決策としてＩｏＴやＡＩ技術を活用したスマート農業、農作物のブランド化など各自治体において、様々な取組が実施されている。

赤穂市において、地産地消推進事業や赤穂ブランド推進事業等を実施されていることから、赤穂市の取組を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

# 兵庫県姫路市

---

１　視察日時　　令和７年５月１２日（月）　１３：３０～１５：００

２　調査事項　　『外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について』

３　調査内容（説明内容）
※別添資料のとおり

４　主な質疑応答

**Ｑ１　寄港時のおもてなしの中でお見送り時にゆるキャラの活用や太鼓演奏をされているが、ゆるキャラは姫路市のゆるキャラなのか。また、太鼓演奏はどこの団体に依頼しているのか。**

Ａ１　姫路市のイメージキャラクターのしろまるひめと兵庫県のマスコットキャラクターのはばタンを活用している。市内に太鼓演奏をしている団体が複数あるので、順番に依頼して対応いただいている。

**Ｑ２　寄港時の小学生によるマーチングバンドは平日も対応されているのか。**

Ａ２　小学生のマーチングバンドの対応は令和元年度が最後だったが、その際は休日であった。直近では、３月にクルーズ船が寄港した際、市内の高校のマーチングバンドが春休み期間であったため、演奏をしてもらった実績がある。

**Ｑ３　おもてなしに関する依頼はどこが担当しているのか。**

Ａ３　県・市の役割分担がされており、おもてなしに関することは市が対応している。

**Ｑ４　クルーズ船客からの評価・アンケート等を取っているのか伺う。**

Ａ４　現状では乗客からの評価は聞けていない。船社からツアーバス、シャトルバスがどこに行ったのかは報告があるが、そのうち、どこが良かったなどの具体的な評価は聞けていない。今年度、ニーズ調査等を行い、観光地の提案等をさらに行っていく予定である。

**Ｑ５　寄港時の甲冑着付け体験は、どこの団体に依頼しているのか。**

Ａ５　普段、姫路城で活動されている団体に、クルーズ船寄港時に姫路港で着付け体験の対応を依頼している。

**Ｑ６　インバウンド対策として市民と一体となり、対応していることはあるのか。**

Ａ６　姫路城のほうで、英語の観光ガイドのボランティアは十分対応できる人数は確保している。昨年度、市内の英語科のある高校に依頼して、英語の授業の一環としてクルーズ船寄港時に対応してもらっている。

**Ｑ７　クルーズ船寄港時等におけるタクシー不足はあるのか。**

Ａ７　当初はタクシーの待ち時間が長時間になることもあった。令和５年度末にタクシー協会に協力依頼し、事前にクルーズ船情報や寄港時の混雑情報等を伝えたところ、協会から会員に連絡してもらえる体制となっている。また、中核市であるため、タクシーの台数は潤沢にあり、観光バス・シャトルバスも活用することで、待ち時間も以前に比べて短くなっている。

※別添資料

・外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について

・姫路観光ガイドブック

【視察の様子】

# 兵庫県赤穂市

---

１　視察日時　　令和７年５月１３日（火）　１０：００～１１：３０

２　調査事項　　『貴市における各種農林水産業施策等について』

３　調査内容（説明内容）
　※別添資料のとおり

４　主な質疑応答

**Ｑ１　農業用ため池廃止事業のため池を廃止した理由を教えていただきたい。**

Ａ１　農業従事者の減少・後継者不足により、各地域でため池の利用が減少したため、廃止にしている。

**Ｑ２　未整備農地集積奨励事業で、未整備農地を借り受け、規模拡大を図る担い手へ奨励金を交付とあるが、担い手はどこまでが対象となるのか。**

Ａ２　従来から赤穂市内で農業を営んでいる農家に限る。

**Ｑ３　地産地消推進事業の米粉パン学校給食導入補助金について、製造されている会社は地元にあるのか。また、給食として提供するまでのフローについて伺う。**

Ａ３　赤穂市の場合、１つの給食センターで給食を作っている。米粉パンについては、市内のパン屋に委託して作ってもらい、給食に提供している。米粉に関しては、給食センターで用意して、パン屋に供給する仕組みとなる。

**Ｑ４　有害鳥獣対策について、有害鳥獣の駆除方法は銃と箱わなの割合について伺う。**

Ａ４　赤穂市の場合、３０名程度が有害鳥獣の捕獲をしているが、箱わなのみとなる。数年前までは銃による捕獲も行われていたが、安全性の問題等もあり、現在は箱わなのみで行われている。

**Ｑ５　委託はどこに行っているのか。**

Ａ５　兵庫県猟友会赤穂支部へ委託し、捕獲を行ってもらっている。

**Ｑ６　捕獲した個体の処理方法について伺う。**

Ａ６　猟友会の方で山に埋め戻しで対応していると聞き及んでいる。自家消費している方もいるかもしれないが、ジビエの活用等については特段聞いたことがない。

**Ｑ７　赤穂ブランド推進事業の中に、坂越かきの地域団体商標登録経費補助とあるが、こちらは地理的表示の登録がなされたものか。**

Ａ７　こちらは地理的表示ではなく、その前の地域団体商標登録となる。

**Ｑ８　稲作体験農園設置事業補助金について詳しく説明を願う。**

Ａ８　大きな事業ではないが、小学生を対象としている。学校の規模により対象学年にばらつきがある。基本的は、小学生が稲作体験をすることで、農業に関心を持ってもらいたい。実際の体験内容としては、機械を使わず、苗を植えてもらい、収穫までの間の作業は農家の方に任せて、最後に収穫を行ってもらう。収穫した米は、各学校でどのように使用するかは自由としており、地域のイベントに活用する場合もあると聞き及んでいる。

※別添資料

・赤穂市における各種農林水産業施策等について

・赤穂スイーツガイドブック

【視察の様子】

〈〈　各委員所見　〉〉

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【 古嶋津義 】

◆視 察 日：令和7年5月12日（月）
◆視 察 先：兵庫県姫路市
◆調査項目：外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について

国際拠点港湾の姫路港は、瀬戸内海の東部、播磨地域の中央部に位置し、港湾区域は東西18kmにわたり、面積約7,700haを有している。近年のクルーズ客船寄港実績は、令和6年度6回。令和7年度(予定)8回。姫路港の公共岸壁を使用する外航クルーズ客船を対象に入港料、岸壁使用料を100%減免。姫路港周辺の観光地としては、世界文化遺産・国宝姫路城をはじめ、書写山圓教寺や塩田温泉など豊富な観光コンテンツを有し、ほとんどのクルーズ船客が観光に訪ずれる。ただ地元商店街との協力体制が未整備のため、今後兵庫県物産協会との連携を計り、岸壁での地場産品の物産販売実施や、駅ビル運営事業者との連携による岸壁での案内リーフレットの配布など、経済効果波及に取組む予定。寄港時のおもてなしとしては、初入港時の歓迎式典や甲冑侍等によるお出迎え、お茶席体験、甲冑着付け体験や

忍者手裏剣体験等の体験型イベント。又、ナイトマーケットやキッチンカーによる当地グルメ等のおもてなしも用意されている。お見送りについては、ゆるキャラ、キッズダンス、小学生マーチングバンド(基本的に平日以外)、太鼓演奏(複数団体でもち回り)等でおもてなしを行っている。

県、港湾管理などとの連携については、姫路港ポートセールス推進協議会(事務局兵庫県、会長副知事、副会長副市長)を設立し、誘致・おもてなし等を県・市共同で実施。負担金は県・市で折半。

現状及び今後の展望については、保安規制、時間規制、航路制限(航路が狭く大型クルーズ船が接岸できない)や岸壁使用料減免措置撤廃の検討及びおもてなしの経費(謝金)の高騰により予算の確保に苦慮する等、おもてなしのあり方等も検討課題である。

尚、コロナ禍後はクルーズ客船・観光客共に微増。

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【 古嶋津義 】

◆視 察 日：令和7年5月13日（火）
◆視 察 先：兵庫県赤穂市
◆調査項目：貴市における各種農林水産業施策等について

農林水産業施策の概要（主要な事業）

(1)水田利用振興事業

農業経営改善基盤強化資金を借受けた際の利子を補給する、農業経営基盤強化育成事業。地域の担い手への土地利用集積奨励助成金としての補助、また、地産地消を推進するため、産地直売所を有する集落に対し助成を行う、水田営農対策推進交付金事業。

(2)野生動物対策事業（主なもの）

有害鳥獣捕獲従事者確保事業補助。鳥獣被害防護柵等設置事業補助。有害鳥獣捕獲事業補助等。

(3)人・農地問題対策支援事業

まとまった農地を貸し付けた地域等に対し協力金を交付する、機構集積協力金交付事業や未整備農地を借り受け、規模拡大を図る担い手へ奨励金を交付する

未整備農地集積奨励事業等。

(4)経営体育成支援事業

将来の農地利用集約化を策定し、その実現に向けて生産の効率化に取り組む場合、農業用機械・施設の導入を支援。

その他(5)農村型地域運営組織(農村RMO)形成推進事業。(6)水産振興対策事業。(7)農地・水保全管理事業。(8)農村地域防災減災事業。(9)農業基盤整備促進事業。(10)山地緑化事業。(11)里山防災林整備事業等がある。

(独自の補助制度)

米粉パン学校給食導入補助金や稲作体験農園設置事業補助金等の地産地消推進事業。軽トラ朝市運営補助及び直売イベント出店料補助金等の農水産物直売活動等の支援事業。又、赤穂市内で生産される農林水産物・加工品等、経営の高度化を目指す農林水産業者の取組を支援する、赤穂ブランド推進事業がある。

(ICTを活用した取組)

認定農業者等の担い手において、座標を利用したドローンによる薬剤散布の実施や水路の管理等をパソコン

で管理できるシステム等の活用。

（有害鳥獣対策及び被害状況）

対策については、有害鳥獣捕獲の実施及び防護柵設置。被害状況については、防護柵設置事業により、捕獲数、被害額ともに減少している。

（捕獲実施者や地域との連携）

兵庫県猟友会赤穂市支部へ委託。30名ほどが有害捕獲（箱わなのみ）を実施。地域との連携については、地域住民からの要請を受け猟友会へ相談し、防護柵の設置や補強等を実施している。

（6次産業化の取組）

赤穂スイーツガイドブック等の作成や赤穂市の特産品を使用した加工品の開発、販売を集落内のふれあい市場で行っている。

# 経済企業委員会　行政視察所見（1/2）

委員名【　　木　村　博　幸　　】

◆視 察 日：令和７年５月１２日（月）時間：午前１３時３０分～１５時００分
◆視 察 先：兵庫県姫路市
◆調査項目：「外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策」について

## ① 港湾設備及びクルーズ寄港の概要

・姫路市の姫路港は、東西 18 キロの広大な港湾区域を持ち、11 万トン級の大型クルーズ船が安全に入港できる設備が整備されている。
・姫路港は航路幅が 250ｍと狭くなっており、全長が航路幅を超える大型クルーズ船の入出港の場合は時間的な制限がある。特に出港時は 22 時以降となるため、次の港に着く時間との兼ね合いで敬遠されている。
・旅客船ターミナルについては工事中で、解体まで終わって岸壁の方にはターミナルは何もない状態になっている。今後の整備予定は県、市で調整し、令和 13 年とか 14 年を目指している。
・姫路港は、年間最大で約 10 隻のクルーズ船が寄港するが、時間制限や航路の制約により、寄港数は限られている。

## ② クルーズ寄港時のおもてなしについて

・姫路港では、甲冑侍やお茶席の提供、歓送迎イベントなど、外国人客に合わせたおもてなしを行っている。
・グルメの提供にはキッチンカーを利用し、地元の特産品を販売するブースも設けている。
・費用面の課題があり、寄港数の増加に伴う経費の高騰が懸念されている。

## ③ 地元商店街等との協力体制について

・現在、地元商店街との協力体制は整っていないが、物産協会と連携し、岸壁で地場産品を販売する取り組みを行っている。

・駅ビル運営事業者とも連携し、観光リーフレットの配布を通じて観光促進を図っている。

**④ コロナ禍前と現在の状況や変化**

・コロナ前の寄港数は最大で 4 隻程度であり、現在も寄港数は微増しているが、劇的な変化は見られない。

・姫路港の寄港数は安定しているが、経費が圧迫されている状況が続いている。

**⑤ 県、港湾管理者などとの連携について**

・港湾管理者である兵庫県と協力して、姫路港ポートセールス推進協議会を設立し、誘致やおもてなしを共同で実施している。

・県市間の協力が重要であるが、温度感の違いによる連携の難しさが課題として挙げられている。

**⑥ 現状及び今後の展望**

・現在の寄港数は微増しているが、予算の逼迫が懸念される。

・今後、ラグジュアリーの中・小、小型船の誘致方針を検討し、経済効果を高める取り組みを進めていく必要がある。

**（ 考 察 ）**

**姫路港の状況から八代市が学ぶインバウンド対策について**

**1．おもてなしの工夫**

・姫路港では、歓迎イベントや地元特産品を用いたおもてなしが行われており、特に文化体験や食文化を活用したサービスが効果的であることが示されています。八代市も地元の特産品を活かしたおもてなしや、地域の文化を取り入れた体験イベントを充実させることで、訪問者の満足度を向上させることが期待される。

**2．地元商店街との連携**

・姫路市は地元商店街と協力し、物産販売ブースを設置しています。八代市も

地元商店街との連携を更に強化し、地域経済への還元を図るために、効果的な販売方法やイベントを共同で企画することが重要。

**3．観光リーフレットの配布**

・姫路港では、観光リーフレットの配布を通じて情報提供を行っています。八代市も、クルーズ船から下船する前に観光情報を提供する仕組みを整えることで、地元への観光客の利便性を向上させることが可能。

**4．連携体制の確立**

・姫路市は県と市が協力してポートセールス推進協議会を設立し、誘致活動を行っています。八代市も、県や他の自治体と連携し、港湾管理者と共に一体となった誘致戦略を構築することが求められる。

**5．デジタル活用　：**

・デジタル情報を活用した観光促進の取り組みが重要です。八代市も、観光客のデジタル行動を分析し、スマホアプリやウェブサイトを通じて情報提供を行うことで、自発的な訪問促進を図ることができる。

**（ 視 察 総 論 ）**

今回の会議では、姫路港におけるインバウンド対策の成功事例を通じて、八代市が今後の施策に活かすべきポイントが明確になった。姫路市が実施しているおもてなしや地元商店街との連携、観光情報の提供方法などは、八代市にとって非常に参考になるものであり、これらの取り組みを八代市に応じた形で展開することが求めらる。また、県や他の自治体との連携を更に強化し、地域全体でのインバウンド促進を図ることが重要。今後、八代市がこれらの知見を活かし、地域の魅力を最大限に引き出すことが期待される。

# 経済企業委員会　行政視察所見（2/2）

委員名【　　木　村　博　幸　　】

◆視 察 日：令和７年５月１３日（火）時間：午前１０時００分～１１時３０分
◆視 察 先：兵庫県赤穂市
◆調査項目：「貴市における各種農林水産施策等」について

## ① 農林水産業施策の概要（各種事業内容等）

赤穂市では、農林水産業施策として多岐にわたる事業を展開している。主な施策には、農業経営基盤強化育成事業や水田利用振興事業があり、特に認定農業者に対する借入利息補助が行われている。さらに、地域の担い手への土地利の集積奨励助成金が推進され、地産地消を促進するための産地直売所の利用促進も図られている。

また、漁業に関しては、アサリや牡蠣の生産支援や漁業者のリスク軽減のための補助が行われている。

## ② 独自の補助制度

赤穂市は、独自の補助制度として「地産地消推進事業」と「赤穂ブランド推進事業」を設けている。

地産地消推進事業では、米粉パンの学校給食導入や稲作体験農園設置に対する経費補助が行われている。

赤穂ブランド推進事業は、地域特産品の生産や販路拡大を支援するもので、地域団体商標登録やパッケージ機械購入に対する補助も含まれている。

## ③ ICT を活用した取組

ICT を活用した取り組みとして、農業者に対するスマート農業の推進が行われている。具体的には、ドローンを用いた薬剤散布が実施されており、国の補助を利用して導入されている。また、農村型地域運営組織（農村 RMO）でのデジタル活用の検討も進められている。

### ④ 有害鳥獣対策及び被害状況

有害鳥獣対策として、シカやイノシシの個体数調整が行われており、猟友会に委託して捕獲業務を実施している。防護柵設置の補助も行われており、個人や自治会に対して多段階で補助金が支給されている。

被害状況については、シカによる農作物被害が多く、特に豆類や水稲に影響が出ている。近年、被害面積は減少傾向にある。

### ⑤ 捕獲実施者や地域との連携

捕獲実施者として兵庫県猟友会赤穂市支部が活動しており、地域住民からの要請を受けて捕獲を行っている。

猟友会と地域の連携により、効果的なわなの設置や防護策の強化が図られ、地域の状況に応じた対応が進められている。

### ⑥ 6 次産業化の取組（取組状況及び今後の展望）

6 次産業化に向けた取り組みとして、特産品を使った加工品の開発や販売が進められている。特に赤穂スイーツガイドブックが作成され、地元の果物を使用したスイーツの販売が行われている。

農村 RMO の活動を通じて、地元特産品の生産、加工、販売を集落内で行うことを検討している。今後は、落花生など新たな特産品の開発や販売が期待されている。

## （ 考 察 ）

### 1．独自のブランド戦略と情報発信

赤穂市が行っている「赤穂ブランド推進事業」におけるオンライン検索連動型広告は、費用対効果が非常に高く、特産品の認知度向上と販路拡大に成功している。八代市においても、強みのある農林水産物や加工品に焦点を当て、同様のオンライン戦略や情報発信を強化することで、地域ブランドの確立と経済効果が期待でる。特に、ふるさと納税との連携は参考になる。

**2．地域団体商標の活用**

坂越牡蠣の地域団体商標登録を支援した事例は、地域ブランドの保護と価値向上に繋がります。八代市においては一部では取組まれているもののも、他の特産品に関しても積極的に地域団体商標の取得を検討することで、模倣品対策やブランドイメージの確立を図ることが必要と思われる。

**3．地域と連携した有害鳥獣対策**

赤穂市では、猟友会との連携だけでなく、地域住民からの要請に基づいた対策や、侵入ルートの特定、効果的な防護柵の設置など、地域の実情に合わせたきめ細やかな対策を行っている。八代市においても、地域住民との連携を強化し、地域ごとの被害状況に応じたより効果的な対策を検討する必要があるかもしれない。特に、高齢化する駆除隊では赤穂市のようなワナによる捕獲を主体としている点や、捕獲後の処分方法（補助金支給）なども参考になった。

**4．地産地消の推進と学校給食の活用**

赤穂市が行っている米粉パンの学校給食導入補助は、地元の米の消費拡大と食育を同時に推進する良い事例。八代市においても、地元産の農産物を活用した学校給食は行われているが、更なる提供の品目拡充を検討することで、地産地消を促進し、地域農業への理解を深める事で後継者問題解決に繋げていければとも考えらる。

**5．農村型地域運営組織（農村 RMO）の推進**

高齢化や人口減少が進む中山間地域において、赤穂市が農村 RMO を推進し、地域課題の解決や地域コミュニティの維持強化を図っている点は、同様の課題を抱える八代市にとって参考になった。地域住民が主体的に取り組むための支援体制や連携の仕組みづくりが重要。

**6．きめ細やかな担い手育成支援**

認定農業者への利子補給や、未整備農地の集積奨励金など、経営規模拡大や効率化を目指す担い手への具体的な支援策は、八代市においても検討する価値がある。これらの施策を参考に、八代市の地域特性や課題に合わせて取組みを検討することで、農林水産業の振興や地域活性化に繋がる可能性があ

る。

**（ 視 察 総 論 ）**

赤穂市は、人口減少や高齢化といった課題を抱えながらも、多様な農林水産業振興策を展開していることがわかった。

特に、独自の補助制度である赤穂ブランド推進事業のオンライン検索連動型広告は、費用対効果が高く注目される。

有害鳥獣対策では、地域と連携したわなによる捕獲と防護柵設置が中心であり、銃による捕獲は行われていなかった。また、イノシシよりもシカによる被害が大きいという特徴があった。また、八代で被害が大きいカモ類からの被害はなかった。これは沿岸部に露地野菜の生産が行われていない理由があった。

質疑応答では、八代市側から具体的な取り組み内容や課題について多くの質問が出され、活発な意見交換が行われた。その中で、共通の課題として高齢化と後継者問題、老朽化してメンテナンス費用が嵩む排水機場の問題は赤穂市も同様に深刻であった。

最後に、今回の視察は八代市にとって今後の施策を検討する上で参考となる有意義な機会となった。

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【 上村哲三 】

◆視 察 日：令和7年5月12日（月）
◆視 察 先：兵庫県姫路市
◆調査項目：外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について

○姫路港は兵庫県の西方にあり神戸港が第一の港である。
クルーズ船岸壁としては、延長340m、水深10m、航路幅240m、水深12mであり姫路港の公共岸壁を使用する外航クルーズ客船を対象に入港料、岸壁使用を100%減免（県管理）
○寄港時には、歓迎式典、甲冑侍等によるお出迎え、体験型イベント（お茶席体験等も含む）がある。
クルメおもてなしでは、ナイトマーケット、キッチンカー等、お見送りでは、太鼓演奏、ゆるキャラ、キッズダンス、小学生マーチングバンド等であった。
○地元商店街等の協力体制は未整である。
○クルーズ客船が小型（264名～650名がメイン）であり、大型船（2000名以上）は、入出港の時間が関係する為に、好まれていないのが現状である

○ 外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策については、

直近に兵庫県最大の神戸港があっても、姫路市には、世界

遺産・姫路城があり、ハリウッド映画、大河ドラマの撮影が

行なわれた「書寫山圓教寺」は人気の聖地でもある。

八代市でもうらやましい限りである。

今後は、兵庫県（港湾管理者）とよく話し合をもち、

港の整備はもとより、姫路の宝をアピールして、

県と市が一体になった、インバウンド対策が

望ましいと感じた。

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【 上村哲三 】

◆視 察 日：令和7年5月13日（火）
◆視 察 先：兵庫県赤穂市
◆調査項目：貴市における各種農林水産業施策等について

○赤穂市と八代市の概要比較 ○総農家数 687戸（八代市 3487戸）
林野面積 8072ha（八代市 49820ha）○耕地面積 759ha、（八代市 8260ha）
収穫量、水稲 1890t（八代市 19,400t）、小麦 188t（八代市 275t）
大豆、29t（八代市 1t）
○漁業就業者数、63人－漁船隻数 113隻、八代 278人－230隻）
漁獲量－ひかなご（29t）、牡蠣（484t）、八代（その他 60t）

農林水産業の施策の概要では、13項目程あったが、○農村RMO形成推進事業、○人・農地問題対策支援事業、○地産地消推進事業（独自の補助事業）○赤穂ブランド推進事業（独自の補助事業）が特筆すべきである。
○IOTを活用した取組では、担い手におけるスマート農業の取組として認定農業者等の担い手において座標を利用したドローンによる薬剤散布等を実施。

○6次産業化の取組では、赤穂市の特産品を使用した加工品（イチゴ、落花生等）の開発・販売を目途として、○赤穂スイーツガイドブック等の作成、農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業において、特産品の生産・加工→販売を集落内で行う計画を検討中である。

第1次産業においては、働手の高齢化、収入、経費等様々な要因で事業の継続がむずかしくなっている。細かい所にも目をむけて、市、県、国が課題を共有してサポートしていく連携の構築が急務であると感じた。

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【　金子　昌平　】

◆視 察 日：令和７年５月１２日（月）
◆視 察 先：兵庫県姫路市
◆調査項目：「姫路市における外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策」について

姫路市は、インバウンド観光の振興に向けて姫路港を中心に多角的な戦略を展開しており、国宝姫路城等の観光資源を活用した観光都市の実現を目指している。姫路港は瀬戸内海東部・播磨灘に面した港湾で、広大な港湾区域を有し、工業・物流機能とともに観光港としてのポテンシャルも高い港である。近年のクルーズ客船寄港実績では「ル・ソレアル」「オイローパ２」、過去最大となる「ダイヤモンド・プリンセス」などのクルーズ客船が寄港しており、令和７年度は８回のクルーズ船入港が予定されている。

港の受け入れ設備としては、飾磨第４号・５号岸壁（延長 340m、水深 10m）を連続バースとして使用することで、大型クルーズ船にも対応可能であり、泊地（水深 12m）も確保されている。さらに、誘致のためのインセンティブとして、外航クルーズ船に対しては入港料・岸壁使用料の全額免除が実施されており、これは１回あたり最大約 140 万円相当の支援に相当する。

姫路港の最大の強みは、寄港地としての魅力的な観光資源に恵まれている点である。世界文化遺産である「姫路城」や、日本遺産に認定された「銀の馬車道」など歴史文化的価値の高い観光地が市内に点在しており、その他にも好古園、書写山円教寺、さらには酒蔵見学や伝統工芸体験など、外国人観光客に魅力のあるコンテンツが豊富である。

大型クルーズ船寄港時には、地元の観光団体や住民による「おもてなしイベント」が開催され、甲冑侍のお出迎えや地元文化の体験型イベント、姫路の食を堪能するご当地グルメ、教育・地域との連携によるマーチングバンドや和太鼓演奏

等の歓迎演奏などが行われている。また、地元商店街等との協力体制については、現在のところ未整備であるが、兵庫県物産協会との連携による岸壁での地場産品の物産販売の実施、駅ビル運営事業者との連携による案内リーフレットの配布を予定しており、商業活性化と観光満足度の向上を図っている。さらに、姫路港ポートセールス推進協議会をはじめとした関係団体と県との連携も密接で、クルーズ船誘致のためのセールス活動やおもてなし事業の負担金は、県1：市：1の割合で共同実施している。

今後の展望としては、寄港回数の増加に伴う、おもてなし事業の見直しや予算の拡充を検討するとともに、クルーズ船誘致方針を決定させ、ターゲットを明確化。限られた予算の中で最大限の効果が発揮できるインバウンド対策に注力していくようである。

本市においても、クルーズ船の寄港を活かしてインバウンド観光を推進しており、平成29年には過去最大の66回の寄港があった。以前は市外への団体旅行が主流であったが、現在は個人旅行客が増え、市内を周遊する人も多くなっている。受け入れ体制としては、姫路市と同様に観光案内所の設置や通訳ボランティア、シャトルバスの運行を行い、寄港時には演奏や伝統芸能、キッチンカーなどで地域を挙げておもてなしを実施。また、クルーズ船寄港時の受け入れ環境において「タクシー不足」「中心市街地の飲食店不足」「多言語情報の不足」の3つの課題に対する対策が進められている。まず、タクシー不足については、大型クルーズ船寄港時に長時間の待ち時間が発生していたため、営業区域外のタクシーが臨時営業できる特例を国に申請し、承認を受けて対応。次に、飲食店の不足に関しては、営業店舗がランチ時間帯に限られていることが要因とされ、営業店を紹介するランチマップの配布などを行い、地域と連携して市街地の賑わい創出を図っている。さらに、多言語表示の不足については、Google マップへの情報掲載を進めるとともに、主要観光地や商店街への多言語案内パネルの設置を予定しており、観光客への情報提供の充実を目指している。こうした取り組みにより、観光消費の拡大や市街地の賑わい創出を図り、地域全体としての経済効果が見込めるよう、今後も関係機関と連携しながら尽力していく必要があると思う。

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【　金子　昌平　】

◆視 察 日：令和７年５月１３日（火）
◆視 察 先：兵庫県赤穂市
◆調査項目：赤穂市における各種農林水産業施策等について

赤穂市は、豊かな自然環境を活かした農林水産業を基盤とする地域であり、地域経済と市民の暮らしを支える一次産業の持続的な発展に向けて、13 項目にわたる多角的な事業を展開している。

農業分野では、農業経営改善計画を基軸とした経営の安定化を図る「水田利用振興事業」、地域の農業ビジョンに基づいた機械や施設の導入を支援する「経営体育成支援事業」、そして高齢化や担い手不足といった地域課題に対応する「人・農地問題対策支援事業」等により、生産基盤の維持と強化が進められている。また、「農地・水保全管理事業」では、地域組織による農地や農業用水の適切な維持管理を支援し、「農業基盤整備推進事業」では、老朽化した用排水施設の整備・更新を通じて、効率的で持続可能な営農環境の整備を進められている。さらに、「農村型地域運営組織（農村 RMO）形成推進事業」では、中山間地域における集落維持や地域資源の管理を目的として、地域全体で取り組む農村管理体制の構築を支援しており、農地・人材・自然資源の持続的な活用が模索されている。そして、自然環境との共生という観点からは、イノシシやシカによる農作物被害に対応する「野生動物対策事業」、市民が利用する遊歩道や展望台施設周辺の整備や荒廃した森林の再生を支援する「山地緑化事業」や「里山防災林整備事業」に取り組んでおり、森林の保全と災害リスクの軽減の両立を図っている。

水産分野では、「水産振興対策支援事業」により、アサリ種苗購入助成や漁船損害保険・漁協共済掛金の一部助成等を支援し良好な漁場環境の整備に取り組んでおり、地域経済の柱としての漁業の活性化を目指している。また、赤穂市独自の補助事業である「地産地消推進事業」では、教育委員会と連携した学校給食における米粉パン導入の補助金を支援、「農水産物直売活動等支援事業」では、農水産物を軽トラ朝市やイベント出店にて販売する地元業者を支援し、地域内での消費拡大と市民の理解促進を図っている。

6 次産業化分野では、「赤穂ブランド推進事業」により、赤穂市内で生産される個性・特徴のある農林水産物・加工品等の生産量・販路拡大、商品の開発、商品力の向上、経営の高度化を目指す農水産業者の取り組みを支援し「赤穂ブランド」の確立を図っている。成功事例として、特許庁の「地域団体商標」に登録された「坂越かき」は、赤穂市が誇る牡蠣ブランドを確立している。また、ブランド商品の販路拡大を図るため、ふるさと納税と連携しつつ、検索エンジン最適化（SEO）を踏まえたオンライン検索連動型広告に対する経費補助の支援により、商品の検索性が向上し、売上が大幅に伸びるなど高い効果を上げている。さらに、赤穂市内のパティシエや菓子店、カフェ、パン店など多くの店舗が、赤穂産のいちご・柑橘・塩を活用した約 80 種類のスイーツを開発・販売している。これらの情報を一元的に発信し、地域の魅力を市内外へ広く伝えるため、「あこう魅力発信基地」が設立され、情報発信力の強化が図られており、観光誘客と地元経済活性化にも寄与している。

八代市においても、若年層や新規就農者の参入支援、スマート農業の導入、6 次産業化や地産地消の推進など、次世代を見据えた農林水産施策を進める一方で、新規就農者の定着、ICT 技術の普及、商品販路の拡大、水産資源の持続的管理といった課題もある。今後はこれらの課題に対応しながら、施策間の連携と実効性の向上によって、本市の持続可能な地域農林水産業モデルの確立が期待されると思う。

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【　　谷口　徹　　】

**◆視察日：令和7年５月12日㈪**

**◆視察先：兵庫県姫路市**

**◆調査項目：外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について**

**◇開会**

**◇歓迎の挨拶　　姫路市議会　　宮下和也議長**

本市は人口51.2万人、面積531㎢の都市。合併により家島諸島も市域に。観光客は外国人が多い。新幹線のぞみが停車してくれるおかげかも。食材豊富で銘酒もある。姫路を楽しんでいただきたい。

**◇出席説明員の紹介**

・高馬一世氏　観光経済局 商工労働部 産業振興課 港湾振興担当　係長
・田中良衛氏　観光経済局 商工労働部 産業振興課 港湾振興担当　主任
・岩澤昭平氏　議会事務局調査課　課長

**◇調査項目　「外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について」**

**1）港湾施設及びクルーズ船寄港の概要**

瀬戸内海に面し、兵庫県のほぼ中央。明石海峡の西側に位置する。クルーズ船発着所の岸壁は、飾磨４～５号を使用。延長・水深は、340m/-10m。定期就航のフェリーがあり、発着に影響している。入港料（資料参照）はすべて減免としている。

**～担当者らは「入港料免除」については懐疑的。寄港数の増加に伴い歓待の経費も比例する中、港使用による収入は見込めないからか。県と組む協議会運営での葛藤があるもよう。**

**２）クルーズ船寄港時のおもてなし**

「お出迎え」としては、初入港時歓迎式典、甲冑侍等による趣向など。

「体験型イベント」は、お茶席、甲冑着付け、忍者手裏剣を催行。「グルメおもてなし」は、ナイトマーケット、キッチンカー、出店。「お見送り」は、ゆるキャラ、キッズダンス、太鼓演奏、小学生、マーチングバンド。

**～姫路城にちなみ甲冑侍や忍者などの趣向を採用。ゆるキャラ（しろまるひめ、はばタンなど）も登場させている。本市と同様に太鼓演奏もあるが、こちらは市内にある複数団体に輪番で依頼。小学生や高校生らの演奏は休日を当てている。**

しろまるひめ
(兵庫県)
公益社団法人姫路観
ョンビューロー

はばタン
(兵庫県)
兵庫県

**３）地元商店街等との協力体制について**

地元商店街との協力体制は「未整備」とのこと。ただ県物産協会との連携で、岸壁において地場産品の販売を実施。今後は、岸壁において商店等での買物を案内するリーフレットを配付する予定。

**～岸壁での物販は140万円を売り上げることもあるとのこと。姫路駅から姫路城へ向かう商店街は賑わい、外国人観光客が多い。駅の観光案内所にはパンフやグッズがたくさん準備されていた。市民・事業者と協働のインバウンド対策は特に採っていないとのこと。**

**４）コロナ禍前と現在の状況や変化について**

１万トン以上のクルーズ船の寄港はＲ６年は６、Ｒ７年は８（予定）

**～寄港数の実績と予定とも、姫路港より八代港が上位にあり、八代市に学びたいと担当者。**

| 船名 | 入港予定日 |
|---|---|
| オイローパ２ | 3月12日（水） 08:00 |
| 飛鳥Ⅱ | 3月25日（火） 06:00 |
| バイキング・エデン | 4月23日（水） 07:00 |
| ル・ソレアル | 5月25日（日） 07:00 |
| ノルウェージャン・スピリット | 6月10日（火） 06:00 |
| にっぽん丸 | 8月20日（水） 09:00 |
| にっぽん丸 | 8月22日（金） 09:00 |
| ノルウェージャン・スピリット | 9月17日（水） 06:00 |

５）県、港湾管理者との連携について

・港湾管理者は兵庫県で、県と市で「姫路港ポートセールス推進協議会（事務局＝県、会長＝副知事、副会長＝副市長）」を設立。負担金は折半。

**～ポートセールスに関して、県と歩調を合わせるのに腐心していると、担当者。その詳細については不明だが、「神戸港と姫路港＝八代港と熊本港」と同じ構図があるのかも。**

**６）現状及び今後の展望について**

・寄港数の増加とおもてなし経費の高騰により、予算の確保に苦慮。また、おもてなしのあり方を再考することも検討。限られた予算で効果的な誘致活動の考慮が必要であり、そのためには、ターゲットを絞った誘致活動とすべき。（ラグジュアリー（豪華）船向けの観光コンテンツ開発）

**～目標指数は未設定。**

**【全体的な所見】**

**「姫路城しかない」との担当者の言葉に羨望を覚えたが、説明の中に瀬戸内海や定期船運行など姫路港特有の困った事情があることも窺い知ることができた。**

**大型客船の瀬戸内海航行は困難で、紀伊水道→明石海峡→紀伊水道のコースとならざるを得ない。時間規制もあり、それらが寄港プランに影響している。姫路城には神戸港からのアクセスもある。**

**また姫路港からの市内周遊にはバス、タクシーの利用となるが、双方とも十分な台数があるが、それでも２千人規模の上陸では30分待ちとなるなど対策が必要。**

**インバウンドの案内にはガイド協会のほか、英語科の市立高生にも協力を依頼。高校生のボランティアは交流と親善に奏功しているとのこと。**

**県内観光地との連携、市民と外国人の交流促進などにより「八代港」の魅力度を向上させることが、寄港数増加・維持につながると考慮する。（小中高生の外国人との交流は、国際感覚の醸成、外国語の習得などの効果もあるのでは。）**

# 経済企業委員会　行政視察所見

委員名【　　谷口　徹　　】

**◆視察日：令和7年５月13日㈫**

**◆視察先：兵庫県赤穂市**

**◆調査項目：赤穂市における各種農林水産業施策等について**

**◇開会**

**◇歓迎の挨拶　　赤穂市議会　　西川浩司議長**

本市は岡山県と隣接する、地方都市。この10年で人口が、５.３万人から４.３万人と減った。赤穂浪士が縁で、山鹿市とは姉妹提携を結び、４年に1度、交流事業を実施している。

かつて、浪士討ち入りを描いたNHK大河ドラマ「百花繚乱」の放映効果により、訪客が８倍に増えたこともある観光都市でもあるが、清流・千種川の豊富な水により、三菱電機や住友大阪セメントなどの工場が進出している。

◇出席説明員の紹介

・山本政秀氏　農林水産課長・農業委員会事務局長
・寺下好穂氏　議会事務局総務課長
・神田幹雄氏　農林水産課農林水産係長・農業委員会事務局庶務係長
・福井徳生氏　　〃　　林務水産担当係長
・瀧口晃司氏　　〃　　農林整備係長

| | |
|---|---|
| 西川 | （席順） |
| 山本 | |
| 福井 | 寺下 |
| 神田 | やまさき |
| 瀧口 | |

**◇調査項目　「各種農林水産業施策等について」**

**1）水田利用振興事業**

・農業経営基盤強化育成事業（234千円）　　認定農業者への利子補給
・水田営農対策推進交付金（3240千円）　土地利用集積奨励助成金/産地直売所助成

**～地産地消に注力しているようで、産地直売所を運営する集落等への助成が印象的。**

2）野生動物対策事業（21600千円）

・有害鳥獣個体数管理調整委託/捕獲鳥獣処分業務委託/小型有害鳥獣捕獲業務委託/野生動物緊急捕獲処理委託/野生動物死体運搬処理委託/シカ緊急捕獲拡大事業負担金/有害鳥獣捕獲従事者確保事業補助/鳥獣被害防護柵当設置事業補助

**～捕獲はすべて「箱わな」によるもので、とめ刺しのときだけ銃を使用とのこと。猟友会赤穂支部の会員50名のうち30名が捕獲を実施。助成額としては、捕獲が８千円/頭、処理が２千円/頭。**

**～猟友会の高齢化が目立つ。狩猟免許更新費用の半額程度を補助している。**

**～防護柵は大規模なメッシュ柵や電気柵（田畑単位）も。**

**～シカ（376頭捕獲＝R5）＝豆・麦の被害、イノシシ（325頭捕獲）＝稲・豆の被害**

**～市域は低山に囲まれて平野部を形成。干拓地では牧草を生産。鳥被害は問題小。**

**3）人・農地問題対策支援事業（5250千円）**

・地域連携推進員活動支援事業（3941千円）/地域計画作成（変更）事業（84）/機構集積協力金交付事業（375）/未整備のうち集積奨励事業（600）/農業経営力向上支援事業（250）

**4）経営体育成支援事業（3000千円）**

**～国県の補助を受けての事業だが、農地の規模拡大、農業経営の法人化を推進。**

**5）農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業（10000千円）**

**～内陸里山地域（周世、有年）の「豊かな郷づくり協議会」が実施主体（R６～３か年）。兵庫県ではRMO初の取組。赤穂民報にて紹介記事あり。**

**（https://www.akominpo.jp/news/18165.html）**

**6）水産振興対策支援事業（5419千円）**

・アサリ種苗放流事業補助金（1700千円）/漁船損害保険補助金（1500）/業業共済助成事業（1000）/水産振興研究協議会補助金（300）/水産多目的機能発揮対策事業負担金（620）/豊かな海づくり資金利子補給金（290）

**～アサリは貝類総計８㌧のうち、４㌧～７㌧で推移。明確な増産目標はないが稚貝を放流**

**～水産多目的機能発揮対策の具体的な事業は、漁協と連携し、干潟の保全（耕うん）、保護地区の設定、有害魚の駆除など。**

**7）農地・水保全管理事業（53520千円）**

・農地維持支払/資源向上支払（共同）/資源向上支払（長寿命化）/事務経費

**8）農村地域防災減災事業（95250千円）**

**・地域ため池総合整備事業/震災対策農業水利施設整備事業/農業用ため池廃止事業**

**～瀬戸内海気候の少雨のため溜池が点在するもよう。ため池の廃止は、代替の水利が進んだのではなく、農業者の減少によるもの。３池をすでに廃止。さらに４池の廃止を予定。**

**9）農業基盤整備促進事業（7000千円）**

・ほ場整備事業２地区/農地耕作条件改善事業２地区

**～樋門の改修を予定。排水機場は大規模が３、小規模３あり。本市と同様、老朽化、損耗化が問題となっており、その対策案については共有したいとのこと。**

**10）山地緑化事業（3600千円）**

・遊歩道保育事業（1700千円）/遊歩道整備事業（1900）

**～なだらかな丘陵にピクニック広場があり、その遊歩道を整備している。市庁舎上階から見える山腹に「赤」の文字が樹木でつくられており、夜間ライトアップをされている。市民に自然に親しめる空間を創出。**

**11）里山防災林整備事業（1000千円）**

**～林業関連の事業がないため質問したところ、杉等の植林は僅少とのこと。この地域の山容は岩石であるため、林業が盛んにならなかったものと思われる。**

**◇独自の補助事業**

**12）地産地消推進事業（1220千円）**

・地産地消推進事業/農水産物直売活動等支援事業

**～米粉パン学校給食導入に（798千円）の補助金。給食センターは１箇所だけで、米粉パンの（パン納入業者からの）購入費用を助成。**

**～稲作体験農園設置に補助金（364千円）。実施内容は各小学校の実情にお任せ。農業体験により農業への興味喚起、食への関心を高めるための施策。**

**～軽トラ朝市運営（27）、直売イベント出店料（6）の補助金は、やや少なすぎる設定か。**

**独自の補助事業**

**13）赤穂ブランド推進事業（500千円）**

・パッケージのラベル貼付機器購入経費補助/「坂越かき」の地域団体商標登録経費補助/統一したミカン品種の苗木購入補助/カキのオンライン検索連動型広告の経費補助

**～「坂越かき」のＧＩ については弁理士とも相談したが、実現には至らず。**

**～オンライン検索連動…は、「かき」と検索すると優先的に「坂越かき」が表示されるサービス。導入後はオンライン購入が、23.6％→30.7％と増加した。ふるさと納税による売上にも好影響。R5＝1460万円→R6＝4030万円となった。**

**【全体的な所見】**

**・農業＝水稲、小麦、大豆が主産物。農地は、海岸部の比較的広い平野部と、山間地の里山であり、田畑面積の総計は834㌶（本市は6,883㌶）。温暖な気候と山地の斜面を利用してのミカン栽培が盛ん。**

**・水産業＝養殖によるカキの生産量（484㌧）が大きい。ほか八代海では獲れない「いかなご」が39㌧。けっして外洋性ではない瀬戸内海であるが、閉鎖性海域の八代海とは明らかに漁業形態が相違。魚種は八代海が多いよう。**

**・林業＝林業関連の予算は少ない。岩山で杉などの植生ができないからか。市民憩いの場として遊歩道や広場などの整備を行っている。県事業の面積要件に合致しない林地が多いため市予算にて里山保全事業を実施している。**

**・独自の補助制度＝地産地消事業としては、①米粉パン学校給食導入、②稲作体験、など。米飯も地産を使用ならば、米粉パンにより、主食については市産100％となる。**

**　赤穂ブランド推進事業については、オンライン検索連動型広告の経費補助が有効となっており、本市の市産品に対して検討していくべきだと感じた。**

**・６次産業化の取組＝特産品を使用した加工品の開発、販売については、①赤穂スイーツと、②農村RMO、がある。①は菓子店との連携により「赤穂スイーツガイドブック」を作成、②は今年で2年目で、地域運営組織において生産・加工・販売を計画中。本市でこの事業に取組む東陽町の実施主体に注視していきたい。**

更新日：2011年9月1日

## 赤穂市の概要

赤穂市は兵庫県の西南端、岡山県との県境にあり、市内の区域中央を名水百選に選ばれた千種川が流れています。また、市は播磨灘に臨し、海岸線は瀬戸内海国立公園の一角を占めています。気候は温暖で雨量が少ない典型的な瀬戸内海型気候に属しています。市域は、先土器時代などの古代遺跡が多く残る丘陵、河口デルタ上に発達した台地下町の中心部、塩田の開発によって開かれた市域、天然の良港に恵まれた坂越地区の4つの特色ある地区に大別できます。

Geographic Location of Akō City

Geographic Location of Hyogo Prefecture

## 市民憲章

わたくしたちの赤穂市は、播磨灘と千種川の清流にはぐくまれ、古い歴史と伝統をもつ、義士発祥の地です。

このまちを愛するわたくしたちは、誇りと責任をもち、自然と調和のある豊かで希望にみちたふるさとづくりをめざし、ここに市民憲章を定めます。

1. 自然と歴史を大切にし、美しいまちをめざします。
1. 教養を高め、文化の向上につとめます。
1. 健康で働き、明るい家庭をつくります。
1. 互いに助け合い、愛の輪をひろげます。
1. きまりを守り、秩序ある生活をおくります。

## 市の花「ツツジ」

## 市の木「サクラ」

経済企業委員会　行政視察所見

委員名【村川清則】

◆視 察 日：令和７年５月 12 日（月）
◆視 察 先：兵庫県姫路市
◆調査項目：外国クルーズ船寄港に伴うインバウンド対策について

姫路港へのクルーズ船寄港は令和６年度に６回、令和７年度は８回の予定であるとのこと。港へは明石海峡を往復するルートである。過去最大のクルーズ船はダイヤモンドプリンセス（１１５，８７５総トン、全長２９０．２ｍ、定員数２、７０６名）であり、将来の増加に向け、新たに旅客船ターミナルを令和１３～１４年度に整備予定とのことである。姫路港の公共岸壁を使用する外航クルーズ客船を対象に入港料、岸壁使用料を減免するサービスなどを行っている。

寄港時のおもてなしについてであるが、欧米諸国からの客が多いので、クルーズ客に最も人気のある姫路城のインバウンド対策として英語での対応を行っている。またお茶席体験や、姫路城周辺で活動している団体による甲冑侍などによるお出迎えや甲冑着付け体験、忍者手裏剣体験、さらには小学生によるマーチングバンドや複数の民間団体による和太鼓演奏、消防署による歓迎放水、寄港に合わせた花火大会も開催しているそうである。

地元商店街との協力体制はまだ未整備であるとのことだが、兵庫県物産協会との連携により岸壁での地場産品の物産販売を実施したところ、7 店で一日１４０万円の売り上げがあったとのことである。

姫路港ポートセールス推進協議会を設立し、誘致・おもてなし等を県・市共同で実施していて負担金は県・市ともに１：１であるが、寄港数の増加、おもてなし経費の高騰により予算も逼迫しており、その確保に苦慮しているとのことであった。今後も寄港数の増加が見込まれることから、ターゲットを明確化し限られた予算で効果的な誘致活動の在り方を検討したいとのことであったが、おもてなし費用に充てるために県に入港料の一部をいただけないか相談しているそうである。

なお降船後の交通手段であるが、大型船ならタクシー待ち 30 分程度とのことである。スマホ予約などのデジタル化はこれからの課題ということであった。

姫路市には姫路城という観光地があるのが何より大きな強みであるが、本市の場合その代わりに八代妙見祭や全国花火競技大会などのイベントに合わせたことも一考の余地があるのではないか、また体験型や日奈久などの温泉をもっと活用したことも考えていかなければならないと思うところである。

八代港、いわゆるくまモンポートは今、全国的に注目の港であるといううれしい言葉もいただいたところである。

経済企業委員会　行政視察所見

委員名【村川清則】

◆視 察 日：令和７年５月１３日（火）
◆視 察 先：兵庫県赤穂市
◆調査項目：貴市における各種農林水産業施策について

赤穂市の農業産出額は６１、５億であり本市の５分の１程度である。水田利用振興事業の水田営農対策推進交付金として、従来の転作奨励型助成金から、地域の担い手への土地利用集積奨励助成金として補助を行っている。併せて地産地消を推進するため、産地直売所を有する集落に対し助成を行っている。人・農地問題対策支援事業では地域連携推進員活動支援事業として、２７地区に地域計画変更等業務を行う地域連携推進員を配置し、支援を行っている。農村地域防災減災事業では農業用ため池廃止事業として、農業利用がなくなった３池を廃止している。今後の予定としては４池を廃止することとしている。

市独自の補助事業として「地産地消推進事業」があり、月１回赤穂市産米を使用した米粉パンを学校給食に導入する補助を行っていて好評とのことである。ちなみに米飯給食は実施しているが、兵庫県を通じての米を使用しているとのことである。また小学校を対象にした「稲作体験農園設置事業補助金」や軽トラ朝市運営補助などがある。

市独自の補助事業としてもうひとつ「赤穂ブランド推進事業」があるが、市内で生産される個性・特徴のある農林水産物・加工品等の生産量や販路の拡大、商品の開発、経営の高度化を目指す業者の取り組みを支援することでブランドの確立を図るものであり、オンライン検索時に優先的に上位にランク付けされるための補助を実施しているが、効果も上がっているようである。「坂越かき」の地域団体商標登録経費補助も行っているが、地理的表示保護制度いわゆる ＧＩ登録については勉強会も開催したりしたが難しいという判断だったようである。

有害鳥獣対策についてであるが、鹿・猪の被害が主だったもののようである。例年豆類や水稲などの被害がみられるが、令和 5 年度はそれらへの被害の発生が少なかったため被害面積、捕獲数ともに激減した結果となっている。箱ワナのみの助成でありジビエ利用はないとのことで、山に埋め戻しを行っているとのことである。本市では鹿・猪に加え近年ではカモの被害が顕著になっていて、委員会でも鏡町のブロッコリー農家への管内視察も行ったところであるが、赤穂市では対象の野菜がないためかカモの被害はないそうである。有害鳥獣対策に対する補助は当然充実していかなければならないと考える。本市においては中山間地における鹿・猪の被害はもちろんのこと、平野部でのカモの被害も定植した野菜の苗が食害にあったり、出荷直前の野菜が糞害にあったりしたら、農家にとってそれこそ死活問題である。国・県とも協議、要望しながら進めていかなければならないと考える。